

令和7年度 学校評価（前期）結果報告

八幡浜市立江戸岡小学校

1 令和7年度前期自己評価結果の報告

(1) 学校の教育目標・児童像・学校生活について

多くの児童が学校生活を楽しんでいると感じており、児童・保護者のアンケート結果も概ね良好である。しかし、一部には学校生活に満足できていない児童の様子も見られる。今後も児童一人一人の様子を丁寧に把握し、個々の課題や悩みに寄り添った対応を行うことで、全児童が安心して楽しく過ごせる学校づくりを目指す。

(2) 学習指導について

児童の多くが授業に意欲的に取り組み、「授業が分かる」と感じている傾向が見られる。一方で、授業内容の理解に課題を抱える児童も存在するため、児童の実態を把握し、丁寧な説明や個別指導を充実させることで、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進する。

家庭学習については、習慣が定着している児童が多いものの、個人差が大きく、定着しにくい児童も見受けられる。生活学習がんばりカードの活用や家庭との連携を通じて、児童の学習状況を把握し、必要な支援を行うことで、家庭学習の定着を図る。

(3) 生徒指導・人権・同和教育について

児童の挨拶や言葉遣いに関する評価は、他の項目と比較して保護者・教職員ともに低めであり、改善の必要がある。家庭や地域と連携しながら、場に応じた言葉遣いや相手を思いやる言葉遣いの指導を継続するとともに、挨拶の励行に向けた取組を工夫・実践していく。

デジタルメディアの活用については、肯定率は高いものの、きまりや時間を守れていない児童の様子も見られる。ノーゲーム・脳育デーの取組を継続し、家庭と連携した指導を通じて、メディアとの適切な関わり方を育成する。

児童の交友関係は概ね良好であり、友達に優しく接する姿が多く見られる。トラブルもあるが大きな問題には至っていない。今後も教職員間での情報共有やアンケートによる実態把握を丁寧に行い、早期発見・早期対応に努める。

2 今後の重点対策

(1) 目標に向かって主体的に行動する児童を育てる

- 学ぶ楽しさを実感できる、分かる授業作りに努める。
- 自己肯定感を高めるとともに、互いに認め合える集団をつくる。
- 集団への所属意識を高め、互いに支え合える学校・学級経営に努める。

(2) 規則正しい生活習慣を確立する

- 気持ちのよい挨拶や言葉遣いができる児童を育成する。
- デジタルメディアの活用状況を改善する。
- 家庭学習の習慣を定着させる取組を工夫する。